

JAQG 協賛メンバー訪問 ―立川精密工業株式会社様―

1. はじめに

航空宇宙品質センター（JAQG）は 2001 年の創設から 25 周年を迎えます。この記念企画の一環として、協賛メンバー様への訪問を開始しました。

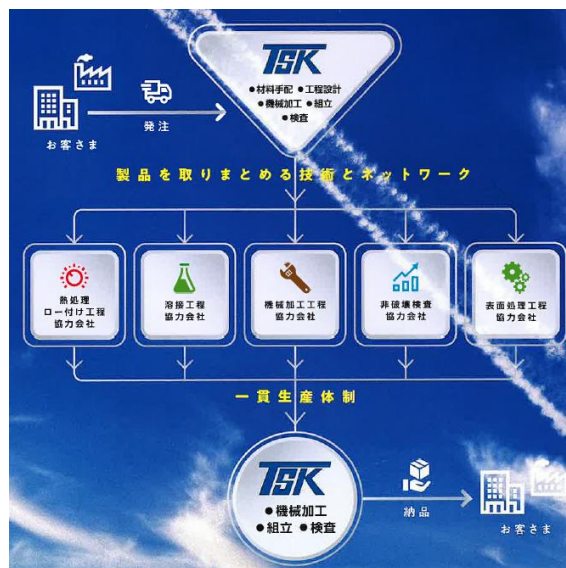
JAQG では年に一度、活動報告会を行い、多くのメンバーの方にご参加いただいておりますが、各協賛メンバーの方の声を十分に拾い上げられていないのではないか、という問題意識がありました。本企画は、9100 規格の動向などについて率直な意見交換を行い、協賛メンバーの方の現場の声を拾い上げるとともに、IAQG や JAQG に対して親近感を持っていただくことを目的としており、話しやすい雰囲気となることを心掛けました。

2026 年 7 月 21 日、この企画の第 2 弾として、立川精密工業株式会社様（東京都羽村市神明台 4-4-21）への訪問を実施いたしました。

2. 立川精密工業株式会社様のご紹介

同社は 1961 年創立、資本金 1,000 万円、従業員 70 名の会社です。航空宇宙関連部品の機械加工、特に難削材の加工やワイヤーカットなどの特殊工程も含む、高度な金属加工を行っています。

自社加工だけではなく、創立当初から熱処理、溶接、非破壊検査、表面処理等において協力会社をとりまとめ、顧客要求に応えるなど、昨今盛んになっているクラスターにおける一貫生産体制を創立当初から実施していることも同社の特徴となっています。



当日は大越社長、岡村常務（製造部）、木村常務（品質保証部）にご対応いただきました。JAQG からは（株）IHI 池崎主幹、櫻庭主査、日本電気（株）高津プロフェッショナル、三菱電機（株）三浦様、SJAC 城福が訪問いたしました。



(左から) 木村常務、大越社長（立川精密工業）、池崎氏（IHI）、岡村常務（立川精密工業）、高津氏（日本電気）、三浦氏（三菱電機）、櫻庭氏（IHI）、城福（SJAC）

3. JAQG 説明

対面ならではのオープンでフランクな雰囲気のもと、担当者の実体験や言葉を交えた解説を行いました。



3.1 JAQG/IAQG 紹介（説明者：SJAC 城福）

IAQG/JAQG の活動概要、ボランティアベースでの運営体制、規格開発への主体的な参画について説明し、日常的な疑問や要望の窓口としての JAQG をアピールしました。

3.2 規格の最新動向（説明者：IHI 池崎氏 / 日本電気 高津氏）

9100 規格の改訂動向を解説しました。特に、国家規格である JIS Q 9100 が今回の改訂では

IAQG の民間規格としての IA9100 へシフトし、全世界的に発行時期を統一していく点や、「防衛省の QCD 評価」といったキーワードは、先方にとっても新鮮で関心の高い情報となりました。

3.3 9150 規格およびツール紹介（説明者：三菱電機 三浦氏）

IAQG が中小企業向けに開発中の 9150 規格概要を紹介しました。立川精密様は既に 9100 を取得されているため自社適用への直接的な興味は限定的でしたが、小規模な協力会社への有効性について議論を行いました。また、OASIS Insight が自社の同規模の組織内での位置づけ把握や AIMM・SCMH との連動による改善に役立つツールであることを紹介しました。

4. 意見交換

質疑応答や議論の場では、大手企業側では実感しにくい中小企業特有の悩みや切実な課題について、予定時間を大幅に超過し、活発な意見交換が行われました。

4.1 SubTier 管理について

■ 小規模工場への要求の限界

1～2 名で運営する家族経営のような小規模工場に対し、些細な不具合であっても厳格な是正処置（原因究明や再発防止策）を求めると、「そこまで求めるなら仕事を受けない」と言われかねない現実的な懸念が示されました。

■ 発注側の責務

改訂規格で要求される Sub-tier 管理について、単に文書上で要求事項を数珠つなぎにフローダウンするだけでなく、規格の意図を噛み砕いて協力会社に寄り添いサポートしていくことが、JAQG 参画企業の責務であるとの認識を深めました。

4.2 品質保証のコストについて

■ 増大する品質コストと効果の見えにくさ

APQP や PPAP への対応、複雑化・高精度化する品質要求に伴い、品質保証コストが増加傾向にあります。コスト増は中小企業にとって死活問題である一方、費やしたコストに対する効果が見えにくいという議論があり、一種の保険のようなものではないかという考え方も示されました。

■ 規格維持と新規ベンダー開拓のハードル

この業界に参入しようとして受注を求める企業と話をするとき、当初は見かけ上の製品単

価の高さから興味を持つが、製品精度や品質保証の要求から、それなりの手間とコストがかかることが分かるにつれて、興味を失う傾向がみられるとのこと。

9100 認証の維持にかかる工数負担に加え、新たな協力会社を開拓しようとしても、厳しい外観基準や成績書作成等の管理コストがかさみ、採算が合わず開拓が進まない現状が語られました。

4.3 納期管理と社内デジタル化

■ 納期遵守とパートナーシップ

厳格な納期管理の維持に対する苦勞が明かされ、発注側からの早期の所要数提示を含め、日頃からベンダーと Win-Win の関係を築く重要性が再確認されました。また、発注側から近い将来の需要予測などの情報提供があってもよいのではと言う議論もありました。

■ 業務の電子化

デジタル化の必要性は強く認識されているものの、具体的な推進手法や落とし込みに悩まれている実状が共有されました。一方で防衛省では電子による見積もり提出となり、紙に承認印を押印していたところに比べ実感が薄くなったとの意見もありました。

4.4 新たな要求事項（APQP）への対応と情報提供

新たに要求されることになった APQP について話題となりました。概要をご説明するとともに、理解を深めるためのツールとして IAQG の Podcast（Quality Horizon）をご紹介しました。Quality Horizon では APQP 担当者へのインタビューなど IAQG に関わる広範な話題について、担当者の肉声を聞くことができます。JAQG ではこの Podcast を日本語に翻訳し、AI を用いた日本語音声版も作成しており、是非ご活用いただきたい旨をお伝えしました。

(https://jaqg.sjac.or.jp/iaqg_podcast.html)

4.5 航空機の需要予測と業務拡張の難しさについて

ごく簡単にですが、日本航空機開発協会（JADC）が発表している航空機需要予想などを元に、今後の需要予測などについて話題提供をいたしました。航空機需要は今後 20 年間で 2 倍になる見込みですが、工場や機械の拡張は可能でも、従業員を簡単に増やせる状況ではないことが懸念されるなど、課題があることが、企業規模の大小を問わず、参加メンバー間でも共有されました。

普段は需要予測のようなテーマに触れることは少ないとのことで、良い機会になったかと思いま

す。

5. 立川精密工業株式会社様からの声

JAQG の活動に関しては、コロナ以前は SCMHI 説明会に参加したこともありましたが、ウェブでの参加が可能となった今では、一旦申し込みはしたものの様々な理由で、ウェブでの参加もあまりできていない状態でした。そのような事情で、今回ご説明いただいた内容は、おそらく、過去の説明会等で既に説明されていることと思いましたが、初めて耳にしたことばかりでした。

JAQG のウェブサイトには、問い合わせ窓口があることもお聞きし、今後活用できればと感じました。航空産業の中で仕事をする上で、情報を常にアップデートし続けるためにも、協賛メンバーとしての権利を活用していきたいと感じた次第です。

今回の意見交換会は、勉強になることばかりで、たいへんありがとうございました。

6. 最後に

とても暑い日でしたが、お忙しい中お時間を割いていただいた立川精密工業株式会社の皆様には、改めて感謝申し上げます。機械加工の現場が抱える生の声に触れられたことは、訪問メンバーにとっても大変刺激的であり、今後の JAQG 活動に活かすべき多くの示唆を得る機会となりました。

また、顔を合わせて話ができただけで、JAQG への親近感を持っていただき、要望等を伝えやすい環境造りができたのであれば幸いです。

以上